

What's New?

No.287

(公財)東京市町村自治調査会は、東京都全市町村の総意によって設立され、多摩・島しょ地域における広域的課題や共通課題の調査研究、情報提供、多摩地域の広域的市民ネットワーク活動に対する支援などを行っています。

報告書をご活用ください

～自治調査会では、幅広い分野の調査・研究を行っています～

自治調査会では、昭和61年の設立以来、多摩・島しょ地域の広域的・共通的な行政課題や市町村が抱えるその時々課題などをテーマに、200件を超える調査研究を行い、その成果を報告書としてまとめてきました。

これらの報告書については、多摩・島しょ地域の各市町村における行政運営や業務執行に役立てていただくため、完成後、各市町村へ複数部送付しています。

ぜひ、ご活用ください。

お手元にある部数で不足する場合は、自治調査会ホームページ(<http://www.tama-100.or.jp/>)からダウンロードしていただくか、自治調査会調査部へご連絡ください。在庫があるものについては、1部のみ提供させていただきます。

※提供できる報告書は、平成18～23年度に発行したもののみとなりますので、ご了承ください。

今回は、平成23年度に発行した報告書を紹介します。

■自治体窓口サービスのあり方に関する調査研究報告書 ～業務効率化の先に見える総合窓口～

自治体の「総合窓口」について、導入の前提となる業務効率化の手法と、市町村各課が扱う業務の関連性を明らかにし、自治体の効率的経営を可能にする「総合窓口」のあり方について提案しました。



■企業等が所有する大規模画地に対する自治体施策のあり方についての調査研究報告書

企業撤退等により発生する大規模画地について、市町村の対応施策を「土地利用施策」及び「産業振興施策」の両面から整理し、多摩地域の自治体が地域の実情に即して取り組むべき具体的な施策について提案しました。



■新財源創出策ハンドブック
～新たな財源の創出に関する事例調査～

自治体の財源創出策について、ハンドブック形式で先進的な事例を紹介するとともに、導入手順、ポイント等を整理しました。



■高齢者の社会的孤立の防止に関する調査報告書

高齢者の社会的孤立防止の方策について、自治体が主体的に行う観点と住民組織の自主的な取り組みを支援する観点の両面から提示しました。



■島しょ地域における観光ニーズに関する現況調査報告書

島しょ地域における観光について、地域独自の魅力を地域の側で発信する「着地型観光」による活性化の方策を提示しました。



■多摩地域データブック2011
(平成23)年版

今後のまちづくりや政策形成など行政運営上の基礎資料として、「人口・土地」、「産業」、「都市基盤」など主要な統計データ集を作成しました。



■多摩地域ごみ実態調査
(平成22年度統計)

多摩地域の清掃事業及びリサイクル事業に関する情報を調査し、基礎的な統計データ集を作成しました。



■市町村財政力分析指標
(平成13年度から平成22年度)

財政力指数、公債費比率、経常収支比率など計11の分析指標を掲載したデータ集を作成しました。



■市町村税政参考資料
(平成13年度から平成22年度)

主要税目である市町村民税などの調定収入状況等のデータ集を作成しました。



平成24年度の調査研究事業について、今号と次号の2回にわたり、その概要を紹介します。

市町村の総合計画のマネジメントに関する調査研究

1. 背景

地方自治法の一部を改正する法律(平成23年法律第35号)が平成23年5月2日公布・同年8月1日施行となり、地方自治法第2条第4項の規定「市町村は、その事務を処理するに当たっては、議会の議決を経てその地域における総合的かつ計画的な行政の運営を図るための基本構想を定め、これに即して行なうようにしなければならない。」という義務付けの規定が廃止となりました。これにより、総合計画を策定するか否かは、市町村が判断することになり、議会の議決を含め、総合計画を策定する際の手続きについても市町村が決めることとなりました。

また、総合計画は、まちづくりの最上位の計画として、様々な政策、事業等の基本的な方向性を示すものですが、それ故に総花的で政策の優先順位が明確でない、進行管理が適切に行われていない等の問題点も指摘されてきました。

2. 目的

本調査研究は、このような総合計画の位置付けの変化や従来の課題を踏まえた上で、これからの総合計画への社会的要請と対応の基本的な考え方を提示し、総合計画のPLAN(策定)、DO(運用)、CHECK(評価)、ACTION(見直し)のマネジメントサイクルに係る取り組みモデルを提示するなど、実効性があり実用的な総合計画のあり方の提言や情報提供を行うことを目的として実施します。

3. 調査研究内容

- (1) 総合計画の概要と取り巻く動向の分析
- (2) 多摩地域における総合計画の状況の把握
- (3) 総合計画の先進取り組み事例の調査研究
- (4) 総合計画策定・進行管理・運用の方向性に関する提言

4. 調査研究方法

- (1) 文献調査
- (2) 自治体アンケート調査
- (3) 先進事例ヒアリング調査
- (4) 有識者ヒアリング調査
- (5) アドバイザーとの検討会

5. 調査研究体制

本調査研究は、(公財)東京市町村自治調査会と三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)との共同調査で実施し、有識者がアドバイザーの役割を担います。

地域商店街の公共的役割と自治体の支援に関する調査研究

1. 背景・目的

平成22年度に行った調査『人口減少期における多摩地域の「縮む」未来図』では、多摩地域の人口は2015年をピークに減少し、2025年の65歳以上人口は約110万人(2010年と比べ30万人増)となるという結果になりました。また、東日本大震災の影響によって、住民が地域や人との「絆」を求める傾向が一段と強くなり、地域商店街が果たす役割がこれまで以上に大きくなるといえます。

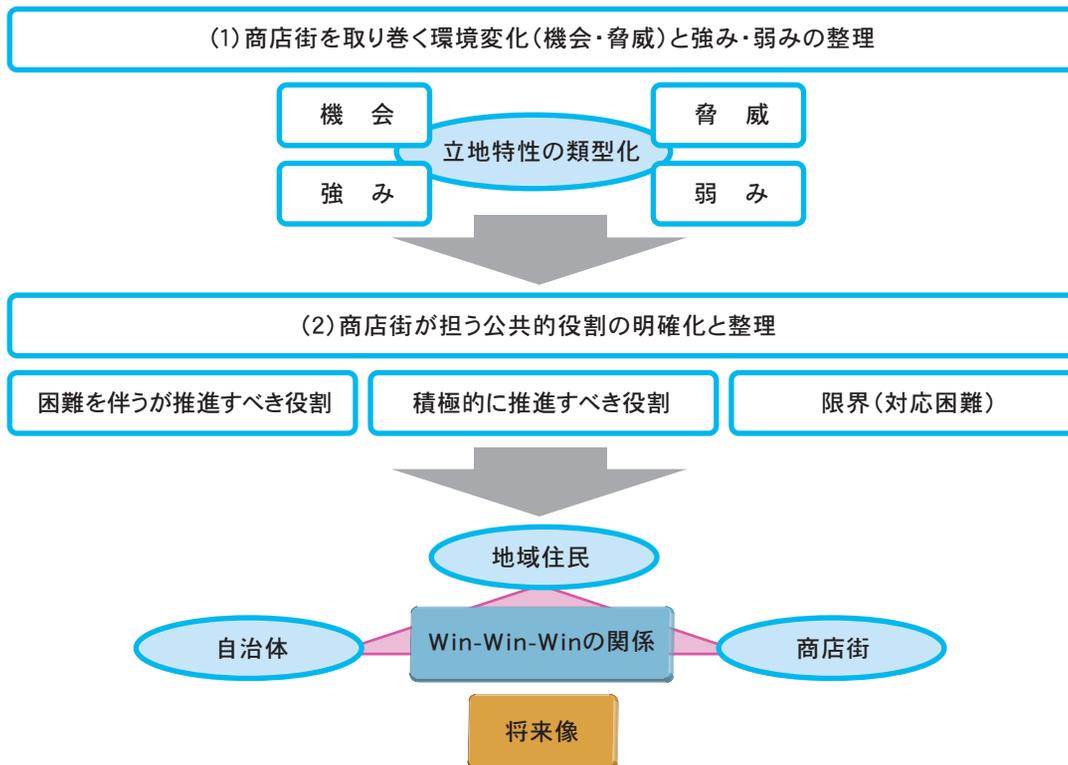
これまでの地域商店街は、大型店舗の出店や通信販売などの流通構造の変化、後継者不足といった課題対応が求められていました。しかし、今後は、高齢者や地域住民が集い憩える場づくり、防災対策、安全・安心への取り組みなど、公共的役割が期待されています。

また、自治体にとっては、高齢者支援や地域活性化といった施策をミックスさせ総合的な視点にたった施策、及び多様な他団体と商店街との橋渡し役が求められています。

本調査研究は、このような背景を踏まえ、多摩地域の商店街をメインターゲットとし、商店街が抱える問題点と市町村の支援策の現状把握、全国の類似商店街の事例研究などを通して課題整理を行い、商店街が今後担う役割を洗い出します。その上で、商店街の役割の可能性と限界を明らかにし、市町村の商店街に対する関わり方や実施すべき施策を提示します。

2. 方向性・内容

地域商店街に求められる公共的役割を以下の流れで明らかにし、市町村の商店街に対する関わり方や実施すべき施策について調査・研究していきます。



3. 主な調査手法

- (1) 文献調査
- (2) 多摩地域の自治体・商店街・住民へのアンケート調査(商店街の公共的役割、課題などの把握)
- (3) 先進事例ヒアリング、視察調査(商店街が担っている公共的役割・実施上の課題、今後の展開などの調査)
- (4) 有識者ヒアリング調査

TAMA市民塾 塾生募集 (平成24年10月開講)

No.	講座名	No.	講座名
1	10カ月で学べる透明水彩画のツボ	10	エンジョイ・トールペイント
2	詩を楽しむ	11	ペン・筆ペン習字講座
3	音楽事始(音楽の教科書にそって学ぼう)	12	樹木ウォッチング
4	一度で通じる米英語発音を身につけよう!	13	朗読-今を生きる
5	城郭を通して見た東国の戦国争乱	14	布に描く四季の花々(染色画)
6	家庭菜園だからできる無農薬栽培	15	野菜ソムリエの季節のおいしい話
7	中国気功十六式太極拳	16	韓国語でお話ししてみませんか
8	四季折々のアロマセラピー	17	アンデスの笛ケーナを吹こう
9	香りの誘い中国茶の魅惑	18	吟詠へのいざない

- **会場**: 多摩交流センター(京王線府中駅北口 徒歩3分)
- **申込資格**: 応募対象者は多摩地域に在住・在勤・在学の方です。
- **申込方法**: 通常ハガキに講座No・講座名・氏名(ふりがな)・郵便番号・住所・電話番号・年齢・性別を明記し、TAMA市民塾事務局まで(1枚のハガキに1講座)。ただし、申込みは1人2講座までです。
- **申込期限**: 平成24年7月15日(日)<当日消印有効>
- **受講料**: 5,000円~10,000円(講座によってはこの他に教材費が必要です。)
 - ※応募者が定員を超えた場合は抽選になります。当選された方の振り込まれた受講料は理由を問わず返金しません。
 - ◎詳しくは自治調査会ホームページ(<http://www.tama-100.or.jp/tama/>)、多摩のかけはし6月号等をご覧ください。
- **問合せ・申込み**: 〒183-0056 府中市寿町1-5-1 府中駅北第2庁舎6F 多摩交流センター内「TAMA市民塾」
 - 電話: 042-335-0111(平日の9時~17時)
 - 主催: TAMA市民塾 共催: (公財)東京市町村自治調査会 多摩交流センター

GO!GO!サマー!
GO!GO!500,000,000!

サマー史上最高額!

1等・前後賞合わせて **5億円**
ぐ〜んと増額!

2000万 × 450本

サマージャンボ 同時発売 **2000万サマー**

1等・前後賞合わせて5億円(1等 4億円、前後賞 各5千万円) 1等 2千万円×450本

2012年市町村振興宝くじ **7月9日(月)発売**

発売期間 7月9日(月)~7月27日(金) 抽せん日 8月7日(火)

この宝くじの収益金は区市町村の明るく住みよいまちづくりに使われます。

公益財団法人 東京都区市町村振興協会

理事会・評議員会を開催しました

公益財団へ移行して最初の理事会・評議員会を、5月に開催しました。今号では、その主な内容をお知らせします。

★開催した理事会及び評議員会

- 第1回定時理事会 平成24年5月10日(木)書面決議による開催
- 第1回定時評議員会 平成24年5月25日(金)東京自治会館で開催
- 第2回臨時理事会 平成24年5月25日(金)東京自治会館で開催

★理事会・評議員会で決定した主な内容

- 退任された方の後任として、新たに評議員・理事・監事に以下の方が選任されました。

【評議員】	清水 庄平 立川市長	渋谷金太郎 清瀬市長
	高橋 勝浩 稲城市長	山下 奉也 八丈町長
【理事】	石阪 丈一 町田市長	渡部 尚 東村山市長
	白井 孝 あきる野市長	河村 文夫 奥多摩町長
【監事】	長友 貴樹 調布市長	坂本 義次 檜原村長

- 新たに理事長及び副理事長が選任されました。

理事長 馬場 弘融 日野市長 副理事長 河村 文夫 奥多摩町長

- 『平成23年度事業報告』及び『平成23年度収支決算報告』について承認されました。



「つなげよう! めくもりの心と島の味」をテーマに、5月26日(土)・27日(日)の2日間、竹芝栈橋で「島じまん2012」が開催されました。町村長が「絆の鐘」を鳴らし、イベントの幕が上がると、会場内はあっという間に人で埋めつくされ、総入場者数は8万7千人。ご島地(ごとうち)グルメはもちろん、ステージでは、伝統芸能や島にゆかりの演目が披露されたほか、東京海洋大学客員准教授「さかなクン」が登場し、伊豆諸島・小笠原諸島に生息している魚類についての特別授業も行われ、人気を博していました。



オープニングで「絆の鐘」を鳴らす町村長

2日間を通じて、司会のパッキンマッキンが会場を盛り上げ、大盛況のうちに「島じまん2012」は幕を閉じました。



大勢の人が集まる会場内



島にゆかりの演目

市長会から



平成24年5月25日(金)に、市長会議が開催されました。主な内容は、下記のとおりです。

○東京都等からの連絡事項

総務局から、平成24年度の「多摩振興プロジェクト事業」について説明がありました。建築物の耐震化の促進や多摩南北道路主要5路線の整備等、予算総額は2,393億5,600万円で、対前年度比82億円の増額となっています。

スポーツ振興局から、「2020年オリンピック・パラリンピック競技大会の東京招致に係る招致気運の醸成」について説明がありました。平成25年9月のIOC総会において開催都市が決定するまでのスケジュールの報告のほか、各種イベント開催時における招致PR活動への協力依頼がありました。

○平成23年度事業報告及び一般会計歳入歳出決算について

決算内容として、市長会等の会議の開催や東京都の予算編成に対する要望活動を始めとする各種の要望、政策提言、多摩・島しょ広域連携活動助成事業、家具転倒防止器具助成事業等を報告しました。

主な歳入は、構成26市からの分担金、(公財)東京都区市町村振興協会からの家具転倒防止器具助成金です。主な歳出は、家具転倒防止器具助成事業費、人件費となっています。

これらの決算額は、歳入16億6,200万円、歳出16億2,900万円であり、差引残額3,300万円は翌年度に繰り越しました。

以上について一括して審議し、承認されました。

○家具転倒防止器具助成事業の実績報告について

平成21年度から23年度まで実施した本事業について報告しました。当初は、家具転倒防止器具の支給件数目標を多摩26市の全世帯の5%としてスタートしましたが、東日本大震災を受けて目標を10%に上方修正するとともに、予算を増額し、最終的には3年間で19万4,164世帯に支給することができました。

新任紹介

総務部長兼調査部長
安武 昌樹

6月1日付で総務部長兼調査部長に着任しました安武でございます。金融機関や東京都におけるこれまでの経験を活かし、新たに公益財団法人に移行した自治調査会の発展に少しでも貢献していきたいと思っております。

そのため、市町村の行財政等に関する調査研究についてより一層の充実を図っていくとともに、自治に関する普及啓発に、これまで以上に努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



編集後記

過ごしやすい季節だと思っていたら、あっという間に梅雨に突入です。我が家では新年度が明けてから月1ペースで伊豆に旅行に行っています。いまだ雨なし。この号が出るころにも伊豆に旅行です。晴天記録を何回まで伸ばせるかなと思っています。(T.F)



5月26日と5月27日に、東京愛らんどフェア「島じまん2012」が開催されました。私が出かけた26日の竹芝栈橋・竹芝客船ターミナルは好天に恵まれ、会場を移動するのに苦労するくらい賑わっていました。八丈島の郷土料理である島寿司を堪能しながら、有名タレントが司会する特設ステージで、東京の島々の伝統芸能が披露されるのを楽しみました。広い会場で様々なイベントが催され、島の特産品が集結する貴重な機会です。次回は二年後に開催されるとのことですので、ぜひ行ってみては!(M.K)

とっておき特産物

第14回 新島村



鮮魚の「たたき」

伊豆諸島・新島といえば「くさや」が有名ですが、この「たたき」も多くの観光客から目玉商品として人気を集めています。

新鮮なムロアジなどの魚のすり身に卵、味噌、砂糖、重曹などを加えたもので、揚げたものは特に「たたき揚げ」として地元家庭のご飯のおかずとしても親しまれています。

新島・式根島では民宿・弁当のおかずとしても良く見られるので、是非ともご賞味ください。

オリーブ色の「新島ガラス」

新島では、この島とイタリアのリパリ島にしか存在しないという「コーガ石」という軽石が昔から採掘され、家や外壁などに利用されてきましたが、新たにコーガ石に含まれる成分が、ガラスの原料として適していることがわかりました。

このガラスは天然のオリーブ色が特徴で、伊豆諸島屈指の芸術品として有名です。島内各地に新島ガラスを使用した芸術作品が多数見られるほか、「ガラスアートセンター」では新島ガラスの製作が体験でき、併設された「ガラスアートミュージアム」では世界中の芸術家が製作したアートを鑑賞できます。



記事、写真提供：新島村役場産業観光課

☎04992-5-0284

発行 (公財)東京市町村自治調査会
 責任者 桑原正志
 〒183-0052 東京都府中市新町2-77-1
 東京自治会館4F
 TEL 042(382)7722・0068
 ホームページ <http://www.tama-100.or.jp/>